

総合計画について市民の意見を聴く会

日 時：平成22年4月13日（火）16:00～18:00

場 所：四日市市なやプラザ 音楽室

参加者：行政4名、市民活動団体等18名

- * 団塊世代の人達がやりがいを持って活動できる仕組みづくりや活躍の場を提供するために市の手助けが必要。
システムを先に考えるのではなく、マンパワーの組織を中心に考える。
- * 人と人をつなぐのは人であり、それをコーディネートする人や団体が必要。
コーディネートする人の給料を払える仕組みが必要であり、中間支援組織に補助金や委託が必要。人と人がつながれば、市民の大きな力を得られる。
企業の退職者にアピールできるような仕組み。そのために中間支援組織が重要。
- * コミュニティビジネスを支援する中間組織が必要。
地域の課題解決するためには資金が必要。
- * NPO 法人を非課税にするような「認定 NPO 法人の四日市バージョン」の作成。
企業が NPO に対して寄付をしやすい環境づくり。
- * 市のプランは他の市が 10 年前に作ったような内容。
市の取り組みに対し、NPO やボランティアも一緒になって動けるような仕組みが必要。
自転車のまちづくり、河川敷の自転車専用レーンなど
⇒ 総合計画の中に「歩行者に安全なまちづくり」を入れている。
(以前) 車中心の道路整備 (今後) 駅につながる自転車や歩行者優先道路の整備に変化。中央通り西側の自転車専用レーンの実施など。
- * 四日市市の財政見直しを見ると危機的な状況である。この状況を市がきちんと説明し、市の赤字をなくす事が重要。
- * 市街地の空きスペースの多くがコインパーキングに変化。
これは東京や名古屋の業者が作っており、事業税が四日市市に入らないことが問題。
⇒ 《空き店舗問題》四日市市は早くから取り組んでいる。
新道通りのマンションを誘致は、中心街に人を呼び戻し、1階に商店を入れることにより賑わいを取り戻すため。
《中心地の活性化》以前は行政中心、現在は商工会議所・行政・地元商業者が一つの組織を作り、活性化基本計画を作成。
⇒ 《中部空港へのアクセス》
再開反対 1/3、無条件で再開 1/3、採算が合うなら再開 1/3。

公共交通機関ならバス・電車を優先的に整備すべき、また空港へのアクセスがあると市が活性化するとの意見もあり。現在検討中で6月議会に方向性を出す予定。

《市の財政危機》

財政改革、職員の見直しが必要。総合計画の中に「選択と集中が必要」との記載を入れる必要あり。地域共同体の検討も。

- * 市の予算組みの情報が少なくわかりにくい。予算制定の過程を明確に。
- * 市の計画や構想になにか物足りなさを感じるし、心に響く内容でない。
具体的な将来の都市像が見えてこない。
⇒本日の資料は各分野の内容を抜粋したもので、具体的なものではない。
具体的内容は5月のパブリックコメントで出す予定。
⇒(以前)骨格が先で構想を作成 (現在)意見を反映させて骨格を作る
構想を示しても市民にわかりにくい
- * 市に担当部署がないので、意見交換の場もないし活動も発展しない。
自分たちの活動が活かされていないという不満があるし、虚しさを感じる。
- * 市の基本構想=市の哲学がよく見えない。
行政は現状を知っているNPOの意見に耳を傾けてほしい。
⇒行政では、相談窓口の一本化を進めている。
現場の市職員とNPOは同じ方向を向いているが、やり方・考え方・アプローチの方法に食い違いがある。目標を一つに持って一本化できる組織が必要と考える。
- * 外国人の問題に関しても同じで、以前ワンストップサービスについて専門の先生を紹介したが、市はその先生に相談に行かなかった。専門家のアドバイスを受けることも必要ではないか。
- * 「選択と集中」を決断するための情報や意見はどこから得ているのか？
人財ポケットの事で市から相談を受けたこともないし、市を退職する職員に説明の機会も与えてもらえない。実際活動する人に情報を与え、また活動する人から情報を得ることが大切で、お互いコミュニケーションをとる必要がある。
コミュニティビジネスが明確になったことは評価できる。
⇒プランは5分野に分かれて議論し、各分野がつかんでいる情報・意見・苦情・会合で出る意見をベースにたたき台を作成し、意見をもらう。
- * 市民・行政・業者が一体となって協働を推進する仕組みを作ることが重要で、その仕組みが構想の中に入っているのか？プランに書いてあることを実行することが重要(PCDA)
⇒協働の概念を持って議論している。協働を入れてパブリックコメントを出す予定。
- * 10年後四日市に住んでよかったと思える施策を作してほしい。